

における機能主義及び反機能主義の運動とのアナロジーを試みる。

3 歴史的事実により過去の服装はすべて反機能的なものを次々に表現してきたことが判った。デザインにおいて反機能的なものは表現性の優位を物語り、抽象化を指向する。これはひとり服装のみならず現代デザインのすべてが指向する機能主義を否定した表現主義に外ならない。

6 服装における「反機能性」について

杉野学園女子短大 千村 典夫

1 最近のモード界では、明かに服装本来の機能を部分的に無視したと思われるものが発表されている。これは果して一部デザイナーの気まぐれとして見過してよいものであろうか。それともこの傾向を一つの時代感覚の反映として現代デザインの流れの上に位置づけることが出来るかどうか、服装における機能とは何を意味するか、現代の服装デザインの上で如何にこれが扱われるべきかを考察してみたいと思う。

2 西洋服の歴史の上で、実例をとりあげ、過去の服装において機能がどの様に考えられ扱われていたかを実証する。(例、着衣動機、中世初期における男女性別による形の分化、近世におけるスカート丈及びスカートの量的増大、スリーブ、20° のホップル、ミリタリースタイル etc) 次に、19° 末期より現代に至る一般デザイン界